



# おおにしだより 第41号

平成26年12月15日

発行所：栃木市立大平西小学校校長室

ランチルーム北側のシンボルツリー‘けやき’も、すっかり葉を落ちつくしてしまいました。しかし、来る春に備え、若返りの逞しい生命力を宿す新芽の準備を、厳しい寒さの中で、しっかりとしているようです。



一方、昇降口の‘なかよしの木’には、かわいいリンゴが枝もたわわに実りました。これは、友だちの「良いところ」「頑張っているところ」を見つけて、カードに記入したものを貼りだしたものです。自分のことを紹介したリンゴの実を見つけた子どもたちの嬉しそうな笑顔が、大変印象的でした。

早いもので、学期の中で一番長い2学期も、残すところ10日あまりとなりました。子どもたちは、各教科等の勉強、持久走大会や校外での体験学習の行事等を通して、努力することや友だちと協力することの大切さを学び、一回り大きく成長しました。

冬休みを控えた今は、2学期の学習のまとめと生活の振り返りをする大切な時期です。充実感を味わわせながらも、やり残したことや、まだ十分に身に付いていないことなどを補い、学期末を迎えさせたいと思います。



校内持久走大会

## 優しさ、温かさにつつまれた冬休みに ☆☆☆親と子の心を紡ぐ☆☆☆

冬休みは、寒さの厳しい時期でもありますが、親戚、縁者が久しぶりに訪問し合い、互いの無事、健康を確かめ、喜び合うお正月があり、子どもたちにとっては、新しい年を迎えることに対する爽やかな緊張感の漂う休みではないかと思えます。

12月26日から1月7日までの13日間の冬休みですが、保護者の皆様のお力で、ぜひ、親子の絆を深めてください。どのご家庭でも、楽しいプランがおありのことと思えます。一緒に遊んだり、一緒に食事をしたり、一緒におしゃべりをしたり……。まずはお子さんと一緒に過ごす時間を生み出してください。そして、思う存分、お子さんと触れ合ってください。また、お子さんが家族の一員として、お手伝いをした時には、頑張る姿を温かく見守ってください。そして、ぜひ、お褒めの言葉をかけてください。

以前、読売新聞「こどもの詩」コーナーに名古屋市平針北小2年中山真実さんの詩が掲載されていましたのでご紹介いたします。

いかがでしょうか。自分から進んで皿洗いをした時の様子が、子どもらしく表現されていますね。この詩の中には書かれていませんが、私には真実さんを温かく見守っているお家の方の笑顔が目に見えます。「真実ちゃん、だいじょうぶ?」「ありがとう。助かったわ。」「真実ちゃんすごいねー」……。そんな優しい励ましや賞賛の声まで聞こえてくるようです。

さらあらい

中山 真実

自分からさらあらいをした  
スポンジに石けんをつけた  
おさらをもってこすった  
キュッキュッと音がした  
そしたら手がすべって  
おとしそうになった  
あーあ あぶなかった

子どもにとって家庭は、基本的な生活習慣やルール・マナーを身に付けたり、社会性を習得するなど、人格を形成する上で極めて大きな役割を果たしています。親と子の心を紡ぎ、優しさと温かさにつつまれた冬休みとなることをご期待申し上げます。

また、以下のことにつきまして、学校では十分に指導してまいります。ご家庭でも、お子さんと話し合ってくださいませよう、よろしく願いいたします。

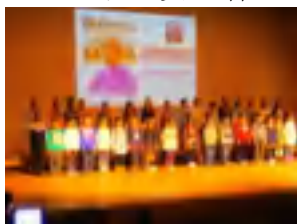


- ☆ 早寝、早起き、朝ご飯
- ☆ 不審者、交通事故に注意!
- ☆ 優しさは、優しい言葉から、そして、優しい言葉は、大人から

新しい年が、児童並びにご家族の皆様にとって、素晴らしい年になりますように、心からお祈り申し上げます。  
大平西小学校教職員一同

## たった一人しかない自分を、たった一度しかない人生を、 本当に生かさなかったら、人間生まれてきたかいがないじゃないか！

本校の1年生は、去る7月27日（日）の「子ども朗読フェスティバル」に出場し、群読『『路傍の石』より『いのち』』を発表しました。大勢の観客を前にして、大変立派な群読を披露することができました。「夢や理想に向かって力強く生きること、人と人がしっかりと支え合って明るい未来を築くことの大切さ」を心を込めて発表しました。



57名の児童は皆、練習の成果を十分に発揮することができ、一人一人にとって、大きな自信となったことでしょう。観客席でご覧になった方々からも、高い評価をいただくことができました。そして、改めて、栃木市民の方々の前で1年生の群読を披露してほしいとの依頼がありました。

### 栃木文化会館での発表

11月24日（月）、栃木文化会館で「朗読と音楽による『山本有三の世界』」（主催：「吾一からくり時計設置実行委員会」）が開催されました。この催しに、出演依頼を受けた1年生は皆、大勢の観客の前で堂々と発表することができました。会場から、万雷の拍手をもらった子どもたちの笑顔が、大変印象的でした。

ところで、栃木市では、名誉市民である山本有三先生の言葉を生かして、本市で育むべき「生きる力」を、「たった一人しかない自分のよさをのびのびと発揮し、自らの意志でたった一度しかない一生をいきいきと切り拓く力」とし、「生命尊重・人権尊重」と「絆」を重んじる精神を基本理念に据え、本市ならではの教育を推進しています。本校においても、この「生きる力」を子どもたちに育むために、今後も「本校ならではの」教育を、計画的かつ着実に推進してまいりたいと考えます。

## 絆を深めた「小中児童生徒交流活動」・「感謝のつどい」



こうすればできるよ～

「おおにしだより第40号」でご紹介いたしました「小中児童生徒交流活動」を11月27日（木）に実施しました。大平中学校1年生58名の生徒が来校し、算数の勉強（1～5年生）を教えてくれたり、中学校生活についての紹介（6年生）をしてくださいました。中学生から勉強を教えてもらった子どもたちは皆、嬉しそうでした。自分の役割や責任を立派に果たしてくれた大平中の生徒たち。靴箱の整理整頓も良きお手本を示してくれました。



さすが大平中生!!



### 心を込めたプレゼント

地域の方々との「絆」を深め、幸せいっぱいのおおにしっ子たち。会場となった体育館は、笑顔が満ち溢れ、人間的な温かさと優しさにつつまれていました。

12月3日（水）に、富田駐在所、交通指導員、子どもを守る会、登下校見まもり隊、自治会長、とちぎ未来アシストネット地域コーディネーター、民話の会、読み聞かせボランティア「ひまわりクラブ」等、日頃から大変お世話になっている方々をご招待し、「感謝のつどい」を実施しました。感謝のお手紙と鉢花の贈呈に続いて、全校児童で歌をプレゼントしました。ご来校の皆様方には、今まで以上に、学校を身近に感じていただける機会になったことと思います。

## ふるさと“とちぎ”みどりづくり事業

### ランチルーム南側にサツキ100本を植栽

栃木県及び公益社団法人とちぎ環境・みどり推進機構は、「大塚実みどりの基金」を活用した、ふるさと“とちぎ”みどりづくり事業により、教育施設や公共施設の緑化を推進しています。（注）「大塚実みどりの基金」：栃木県が（株）大塚商会創業者の大塚実氏から寄付を受け、教育施設等の緑化事業を行うため、公益社団法人とちぎ環境・みどり推進機構に造成した基金。

本校では、この事業が活用できるように、環境教育主任の越沼有子教諭を中心に、要望申請を積極的に行ってまいりました。その後、栃木県南環境森林事務所の現地調査を経て、この度めでたく事業実施校として認定されました。

そして、12月4日（木）・5日（金）の二日間にわたり、ランチルーム南側にサツキが100本も植栽されました。きっと、春には可憐な花を咲かせてくれることでしょう。



きれいに植えられたサツキ